

平成30年度 英語が好きになる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	沿岸南部	学校名	大船渡市立綾里小学校	TEL	0192-42-2100
------	------	-----	------------	-----	--------------

児童がコミュニケーションの場で、主体的に生き生きと活動する外国語・外国語活動の授業づくり

【ねらい】

- 1 単元のゴールを明確にした指導過程を工夫し、共通理解を図る。
- 2 クラスルームイングリッシュ、アクティビティなどの英語運用能力の向上を目指す。
- 3 小中連携の視点から、外国語・外国語活動を通して体験させるべき活動の内容・方法を探る。

【具体的な取組】

1 単元のゴールを明確にした指導過程の工夫及び共通理解

(1) 外国語・外国語活動の目標、内容、評価等についての理解を深める。

4月の職員会議で、外国語・外国語活動の目標やWe Can!の内容について共通理解し、各学年で授業を進めた。また、1単位時間の指導過程を提案し、3年生以上は毎時間、英語での挨拶をするようにした。授業の流れを共通に設定することにより、児童が見通しをもって活動し、表現に慣れ親しむことができるようにした。

夏休み中には、外国語活動中核教員研修会の伝講をし、新学習指導要領における外国語活動・外国語教育の方向性及び評価についても共有した。

冬休み中には、We Can!2 Unit5「My Summer Vacation」で、2つのチームに分けて、マイクロティーチングを実施した。

指導過程

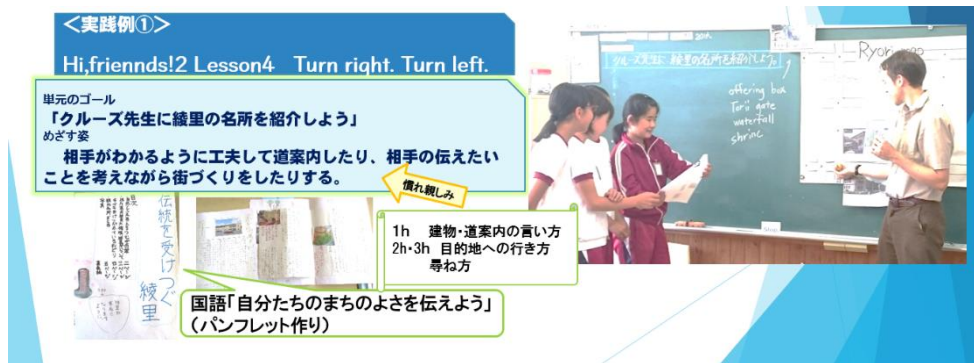
- 1 Greeting
 - 2 Small Talk
 - 3 Today's Goal
 - 4 Chant
 - 5 Game
 - 6 Activity
 - 7 Review
 - 8 Greeting
- ※Small Talkは、5・6年生のみ

(2) ねらいに迫る単元構成を考える。

① 単元のゴールでめざす子どもの姿から逆算した指導過程。

(Hi, friends!2 Lesson4「Turn right.」の実践より)

単元のゴールを「クルーズ先生に綾里の名所を紹介しよう」とし、めざす子どもの姿を「相手がわかるように工夫して道案内したり、相手の伝えたいことを考えながら街づくりをしたりする。」と設定した。



その後、ゴールで目指す姿

になるためには、どんなことができるようになればよいか逆算し、1単位時間の活動内容を考えた。単元の1時間目には、単元のゴールとなる姿を子どもたちと指導者とで共有した。

② 授業のゴールとなる姿を具体的に示し、児童と共有。

ALT との Small Talk やコミュニケーション活動で使用する物などを示し、その単元でどのような力をつけたのか、こどもたちと教師とで、単元のゴールとなる姿を共有した。また、単元のゴールまでの見通しを明示した振り返りカードを作成し、それを活用した。

③ コミュニケーションの必然性をもたせた場の設定の工夫

子どもたちの意欲を引き出すために、コミュニケーションの必然性をもたせた場を設定した。国語で、自分た

ちのまちのよさを伝えるパンフレットを作ったことをきっかけにし、綾里のことを詳しく知らないクルーズ先生に、綾里地区の名所を紹介することにした。子どもたちは、いつも外国語活動で色々なことを教えてくれるクルーズ先生に、自分たちの住む綾里のことを紹介しようと意欲的に活動した。このことは、相手意識を高めることにもつながった。(綾里地区を紹介されたクルーズ先生は、夏休みにアメリカのご両親とお兄さんが大船渡にいらしたときに、子どもたちが紹介した綾里の名所を訪れたそうだ。それを知った子どもたちは、とてもうれしそうだった。)

④ 児童の実態を捉え、児童の意欲を引き出すコミュニケーション活動

今までに慣れ親しんだ語彙・表現を洗い出し、ゴールの活動に向けて慣れ親しませるために、どの時間にどのような活動をするか考えた。

また、何度も使いながら定着させることをねらいとし、できるだけ長く会話を継続すること(2回以上のやりとり)を目指した。

そこで、対話を続けるための基本表現を身に付けることができるよう、今年度から、5・6年生でSmall Talkに取り組んだ。その際、使わせたい表現をはっきりさせて取り組むことや、活動は相手を替えてもう一度やることを意識させた。

- ・5年：インプット中心、指導者とのやりとりを行う。
- ・6年：児童同士のやりとり、既習表現から想起させる。

表現	使用表現	
	表現	語彙
What country ~?	色	国名
What is this?	Colors.	有名なもの
I want to go to ~.	yellow.	Japan.
I want to eat ~.	red.	America.
I want to see ~.	white.	India.
I want to play ~.	blue.	Italy.
	green.	France.
	black.	Egypt.
		Brazil.
		China.
		Australia.
What country ~?	形	Greece.
	star.	Spain.
	circle.	Russia.
	diamond.	UK.
Let's go to Italy..		Canada.
Nice, country..	bird.	Korea.
I want to see ~.	center.	Switzerland.
You want to see ~.		
How about you?.		動作

2 クラスルームイングリッシュなどの英語運用能力の向上

(1) 英語運用能力向上に関わる研修の充実

授業でクラスルームイングリッシュをできるだけ使えるよう、全職員による研修を行った。

4月の校内研で月1回の職員会議後や月1～2回のALT来校時の職員朝会時に行うことを提案し、計画的に行ってきた。

① ALT来校時の職員朝会時(クラスルームイングリッシュ)

<相づち>

- Sure. いいですよ。
- Really? そうなんだ。
- Exactly. その通りだね。
- I see. なるほど。 はい、はい。(相づち)
- Let me see. ええと。
- Why ~? どうしてですか?
Because I ~・なぜなら、私は~だから。
- How about you? あなたはどうですか?



昨年度、職員会議後の「クラスルームイングリッシュ」練習会で使った物を冊子にし、全職員に配布して使用した。

～Let's enjoy classroom English

綾里小学校～から

- ・ 4/27 P14①授業の始まり
- ・ 5/11 P15②活動の始まり
- ・ 5/25 P19①授業の終わり
- ・ 6/8 P19②ほめる
- ・ 6/18 P19③励ます
- ・ 6/22 P15③活動中 1～9
- ・ 7/20 P15③活動中 10～20
- ・ 8/31 P15③活動中 21～34
- ・ 9/28 P16④カードゲーム
- ・ 10/12 P16⑤⑥
- ・ 10/26 P17⑧
- ・ 11/5 P17⑨1～13
- ・ 11/9 P18⑨14～26
- ・ 12/7 P18⑨27～39
- ・ 12/21 P18⑨40～
- ・ 2/1 ~ 未定



②職員会議後（アクティビティで用いる表現）

＜職員会議後＞
アクティビティで用いる表現

5月	キーワードゲーム
6月	ビンゴゲーム
7月	ポインティングゲーム
8月	ミッシングゲーム
9月	ステレオゲーム
10月	ラッキーカードゲーム
11月	カード取りゲーム
12月	ラダーゲーム
1月	ゴーフッシュゲーム
2月	チェーンゲーム



英語が好きになる学校づくり「英語運用能力」に關わって
H30.8.17 外国語活動担当

8月 アクティビティで用いる表現④
 「ミッシングゲーム」

絵カードを使った記憶力ゲームです。なくなったカードが何かあてさせます。

＜例＞
 (グループに分ける)

- 絵カード(8枚程度)の単語を読み上げて確認しながら、順に黒板に張っていく。
- 全て張り終わったら、もう一度発音を確認する。
- 児童に目を閉じさせ、指導者はその間に任意の1枚を手にとって自分の後ろに隠す。
- 児童に目を開けさせ、どのカードがなくなったか(グループごとに相談させ)分かったら、挙手させる。
- なくなったカードをあてたグループをみんなでほめる。

3 T: Now, please close your eyes. (カードを隠して)
 OK. Open your eyes.
 What's missing?
 Can you guess?
 Ct: Do you have a cap?
 Yes, I do. Very good! (正解のとき)
 No, I don't. Guess again. (不正解のとき)

発展編
 単語を導入するときに活用できる。絵カードを使ったボロなゲーム。
 児童が目を閉じている間に、黒板に貼っている絵カードの順序を並べかえたと難易度が上がる。

③毎月1回の授業参観

月	単元(教材)	主な内容
4	Hi, friends!2 Lesson1 Do you have "a" ?	・1単位時間の指導課程 ・Small Talk
5	Hi, friends!2 When is your birthday?	・Small Talk ・Game (ステレオ、キーワード)
	Hi, friends!2 When is your birthday? (学区連携研究会)	・Small Talk ・Activity (バースデーカードを届けよう)
6	Hi, friends!2 Lesson3 I can swim. We can!1 Unit5 She can run fast. He can jump high.	・Small Talk ・We Can!の内容とHi, friends!との関わり ・Activity (先生紹介クイズ)
7	Hi, friends!2 Lesson4 Turn right.	・Activity (ペアで同じ町を作るためのやり取り) ・書き写す (station, post office)
9	Hi, friends!2 Lesson6 What time do you get up? (中学校英語科教員とのTT形態の授業: 4単位時間)	・Small Talk ・Game ・Activity (先生クイズ、誰が1番か確かめる)
	Hi, friends!2 Lesson5 Let's go to Italy. (英語が好きになる学校づくり事業 授業公開)	・Small Talk ・Activity (おすすめの国の紹介)
11	Hi, friends!2 Lesson8 What do you want to be?	・Activity (5年生に将来の夢をクイズ形式で紹介)
12	Hi, friends!2 Lesson8 What do you want to be?	
1	We Can!2 Unit5 My Summer Vacation. (中学校科英語教員とのTT形態の授業: 予定)	・Let's Watch and Think(映像を見てわかったこと) ・Let's Read and Write(冬休みの思い出紹介)
2	We Can!2 Unit7 My Best Memory	・Let's Read and Write(思い出のアルバムを書こう)
3	We Can!2 Unit9 Junior High School Life.	・Small Talk ・Activity (中学校生活の楽しみなこと)

3 小中連携の視点から、外国語・外国語活動を通して 体験させるべき活動の内容・方法を探ること

4月に綾里中学校英語科教員と話し合い、中学校の英語の授業にスムーズにつなげることを目指し、今年度、小中で共通して取り組んでいくことを確認した。「円滑な学びのつなぎ」のあり方を学区連携事業、授業研究会、その他、情報共有や意見交換をしながら、検討している。

- ① 単位時間の指導過程をできる限り共通にする。 ← 中学校の授業への抵抗感を減らす。
- ② Small Talk ← 既習表現を繰り返し使用する機会を保障し、定着を図る。
 ← コミュニケーションを行う際に必要な、対話を続けるための基本表現の定着を図る。
- ③ 振り返りカード(中学校「学習チェックシート」参考) ← 各単元・各時のゴールを設定し、児童と共有する。
 ← 目的にあった活動・授業展開をする。
 ← 自己評価し次時に生かす。

振り返りカードは、中学校の「学習チェックシート」を参考に作成し、5・6年生で使用した。

このシートには、「単元のゴールの姿と目標」、「単位時間ごとのめあてと自己評価の観点」、「感想を書く欄」を設けた。単位時間ごとのめあてや自己評価は、活動が進むごとに、気づきから慣れ親しみ、コミュニケーションに移っていくように考えた。3・4年生は、外国語活動の関心・意欲・態度を振り返り、気づきなどは感想の欄に書く振り返りカードを使用した。

① 中学校英語科教員との TT 形態の授業

Hi, friends!2 Lesson6「What time do you get up?」で、5時間のうち4時間、TT 形態の授業を実施した。

授業をするにあたって、夏休み中に1度、教材の内容と電子黒板の内容を実際に確認した。また、授業をした後、次の時間の授業の進め方について打ち合わせをした。TT 形態の授業をするにあたって、小中連携のためにどのようなねらいで実施すればよいか検討した。

ねらいの1つ目は、中学校の英語の授業で使用する表現を実際に授業の中で聞くこと、2つ目は、小学校の外国語活動の様子を知ってもらうこと、とした。今回は、冬休み中に打ち合わせをし、3学期に TT 形態の授業を行った。

【成果】

1 単元のゴールを明確にした指導過程の工夫及び共通理解

- ・ゴールの姿をイメージして授業を組み立てることができるようになってきた。(教師)

2 クラスルームイングリッシュ、アクティビティなどの英語運用能力の向上

- ・色々な表現を知り、活動中にクラスルームイングリッシュを使用することができるようになってきた。(教師)
- ・何度も繰り返し聞いたり話したりすることで英語の指示に慣れてきている。また、活動中、既習の表現を使う姿が見られるようになってきている。(児童)

3 小中連携の視点から、外国語・外国語活動を通して体験させるべき活動の内容・方法を探ること

- ・慣れ親しむための活動や、コミュニケーション活動のよさがわかった。(小・中教師)
- ・子どもの見取りから、それを補うための活動について一緒に検討できた。また、授業の中で、やりとりのデモンストレーションができた。(教師)
- ・豊富なクラスルームイングリッシュ、英語での表現を繰り返し聞いて学ぶことができた。(教師)
- ・中学校の実態から、子どものつまずきを予想し、指導に行かすことができた。(教師)

4 外国語活動・外国語を進めるための環境整備

- ・ALT との授業の前までに、各担任が指導略案を作成して送った。当日、クルーズ先生との打ち合わせで授業について共通理解をし、役割をはっきりさせ、充実した授業になるようにした。作成した指導略案は、職員室共有パソコンに保存し、いつでも誰でも参考にできるようにした。
- ・外国語活動で使用する教材は、いつでもどの学年も、必要な教材を使用できるように、カードを分類ごとに分け、場所を決めて職員室内に置いた。それと一緒に、英語の絵本や CD など置き、いつでも使用できるようにした。また、作成したカードや資料等はまとめて保管しておき、誰でも使えるようにした。
- ・年に1回、月の歌として全校で英語の歌を歌った。低学年にとっては少し難しいところがあるが、何度も歌って耳で覚えることで、その語彙や表現に出会ったとき、抵抗なく活動に入ることができた。

5 子どもたちの変容

- ・アンケートや振り返りシートの感想から、友だちとのやりとりに不安を持っていた子どもが、コミュニケーション活動で相手が反応しながら話を聞いてくれたことや、ジェスチャーやカードなどを用いて伝えると相手に伝えたいことが伝わるのがわかり、以前より安心と自信をもって活動できるようになった。